

ソーシャルクリニックと地域づくり支援実習の 実施による協働の地域づくり

森町企画振興課 計画係・振興係
係長 水山 淳史

・はじめに

北海道教育大学函館校のソーシャルクリニック実施報告書刊行に際し、寄稿の機会をいただきまして誠にありがとうございます。

2020年度実施された北海道教育大学函館校のソーシャルクリニック及び地域づくり支援実習に市町が参画することが、地方公共団体が抱える人口減少問題の新たな施策となりうる事例として参考としていただければ幸いです。

・ソーシャルクリニック開催について

新型コロナウイルス感染症が収束していない状況下の2020年12月、森町でのソーシャルクリニックをオンラインにて開催することができました。

町からは企画振興課だけでなく、農林課、水産課、商工労働観光課といった産業部門のほか教育委員会が参加し、北海道教育大函館校の地域づくり支援実習や附属函館中学校のICT環境整備と遠隔授業、研修の取り組みなどをお聞きするとともに、森町が抱える地域課題について共有をさせていただきました。

人口減少が進む地方部において、地域づくりを担う人材の育成は重要性がますます高まります。その点を地方公共団体が認識し、連携を深めることで職員養成の期間やコストを削減し、サービスの質を高めることが可能です。

また、ソーシャルクリニックのように高等教育機関と協働で地域の課題を抽出し、解決方法を模索できる場合は、大学がない過疎地域にとつ

て非常に得難い機会です。地域の中高生やその保護者に対して大学を身近に感じる時間となりますし、地域づくりに学術的な視点や学生の価値観を取り入れる機会となるからです。

大学側は実践的な学びの場としてのフィールドと地域課題と向き合う機会を得ることができ、さらに高等教育機関として集積してきた「知」を地域に与え、まちづくりの実践を行うことができると考えています。

・雇用支援に関する協定の締結

2020年9月、ソーシャルクリニック開催の前段に北海道教育大学函館校と森町とで雇用創出支援に関する協定を締結し、地方部の企業や事業所でのインターンシップを実施しました。一定期間地域に滞在して行われる就業体験「地域づくり支援実習」のフィールドとして、森町を活用することで大学生が森町の産業に実際に触れ、就職を身近に考える機会にさせていただくとともに森町の課題発見、解決方法の考案や、魅力の掘り起こしを町とともに継続して実施していくことを通じて、森町のファン(関係人口)創出につながると考えています。

・今後の展開

この2つの取り組みを通じて、町外に住む大学生が森町の歴史や魅力に触れていただく機会とするため、ソーシャルクリニックと地域づくり支援実習について毎年の開催を希望しています。

また、2021年度から森町の人口減少問題対策と地方創生に取り組む組織である「森町まち・ひと・しごと総合戦略策定推進委員会」の委員とともにソーシャルクリニックに参加することで大学、住民代表、町の未来をともに創る体制を整備する予定です。

さらに今後は北海道教育大学函館校以外の大学との連携協定を積極的に締結していきます。この取り組みを通じ、森町がハブとなり複数の高等教育機関との連携体制の構築を目指しています。

これは近視眼的な課題解決にとどまらず、市町村を長期的な協働でのまちづくり施策の提案や実践ができる場を創ることとなると考えていますので、北海道教育大学函館校と森町がコアとなった地域づくりにぜひご注目をいただきたいと思います。